

第4回行政評価検証専門部会会議録

日 時	平成26年10月31日（金）午後1時～4時00分
場 所	生涯学習センター会議室
出席者	【委員】佐藤徹副委員長（部会長）、岩淵公二委員、高樋さち子委員、和田明子委員__（西出順郎委員は欠席） 【事務局】 【担当部等】（追加資料説明のみ）
傍聴者	なし

施策①～③、重要課題について事前に各委員が記載した評価シートを基に、部会としての評価を協議し、決定した。

部会としての評価を基に事務局が外部評価シートを整理し、あらためて各委員にファイルを送信することとした。

2 部会長あいさつ

第4回専門部会の開催となるが、本日はこれまでの議論を踏まえて外部評価シートにまとめていくことになるため、皆様の忌憚りの無い意見をお願いする。

3 協議

【外部評価シートのとりまとめ方法について】

（部会長）各委員から提出された評価シートについて、どのようにまとめたらよいか決めたいと思う。これまでと同じようにまとめた方がよいと思うが、ご意見があったらお願いします。例年では、例えば4名の意見が完全に一致した場合は自動的に評価が決まる。意見が分かれた場合は単純な多数決を行うのではなく、個々の理由を確認の意味で伺い、その上で再度評価をする。なお、その時の意見を受けて、予め事務局に提出した評価を変更しても可とする。以上を踏まえて集約するという流れになるが、よろしいか。

（各委員）異議なし。

（部会長）それではそのようなかたちで進めさせていただく。

(1) 地域の実情に応じた公共交通体系の構築（評価者：3名）

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

（部会長）評価について、「A」（適切）が1人、「B」（概ね適切/一部見直しが必要）が2人ということである。3人が「A」であれば、部会としての評価も

「A」になるが、「A」が1人、「B」が2人なので「A」は無い。つまり、2人が「B」としているので、この場合は「B」としてまとめてよろしいか。
(委員) 特段コメントを記述出来なかった項目、気付いた点の無かった項目は「A」としたので差し支えない。

(委員) 私は「B」としたが、その理由として、施策評価シートに施策の方針が記載されているのだが、その内容と成果の定義がほぼ同じ内容であった。明確に定義されているかと問われると、そうでは無いということで「B」とした。その他意見はあるか。

(委員) 具体的に内部評価シートを記載して欲しかった。漠然としているという印象である。

(委員) 評価の理由欄に委員の名前が記載してあるが、これは最終取りまとめシートではどうするのか。

(事務局) 削除する。

(委員) これまでのルールどおり「B」でよいと思う。

(部会長) それでは部会としては「B」とし、記載されている理由をそのまま残し、委員名を削除することとする。

評価指標の設定は適切か

(部会長) この項目の評価は、「B」が2人、「C」(一層の努力が必要/かなりの見直しが必要)が2人である。

(委員) 私は「B」としたが、これは指標②として「公共交通が利用しやすいと思う市民の割合に関するアンケート調査結果」が出ているが、その地区別の回答で、稲瀬地区の回答者全員が「利用しやすいと思わない」と回答している。稲瀬地区は公共交通がある地区なので、「公共交通」というもの誤解して回答したのではないかと思った。

(委員) 私はこれまでのデータを見ると、もう少し定量的な指標がほしいと思った。

(委員) この施策で指標は2つしかない。様々な情報を集めてデータに基づく分析ができそうなのだが、そこまでいくためにもう少し指標を充実したほうがよいということか。私が「C」と評価した理由は、記載してあるとおり、「地域の実情に応じた公共交通体系の構築」と謳われているが、地域別の指標が無く、ヒアリングの際にも地域別の指標を設定してはどうかと申し上げたところである。また、交通空白地域の定義についても、これは施策の中で中核となるので、指標として打ち出してはどうかと意味で評価の理由として加えた。

(部会長) この「B」が2人、「C」が1人の場合はどうするか。「B」は「概ね適切」だが、「C」は「一層の努力が必要」ということでかなり踏み込んでい

る。「かなりの見直しが必要」では無いとすれば、「一部見直しが必要」なる。それでは、「C」と評価した理由を残して、部会としては「B」とする。なお、このようなケースの時に昨年度も同じ方法で行ったかどうか、確認しておきたい。

(事務局) 確認する。

(部会長) 暫定として「B」とする。

要因考察や課題の把握は適切か

(部会長) この項目は3人とも「B」なので、部会としても「B」とする。

市の今後の方針は適切か

(部会長) ここは評価が「A」1人、「B」1人、「C」1人と分かれている。3人とも「A」では無いので、部会としても「A」ではない。そうすると「B」か「C」となる。「A」とした委員のコメントをいただければと思う。

(委員) 「A」としたのは、特段コメントを書けなかったため。「要因考察は適切や課題の把握は適切か」の項目で「B」とした理由としては、記述をもう少し詳しく書いて欲しかったということ。

(委員) 私は、この分野ではデータを数多く把握できるため、統計分析を経て具体的に方向性が出るのではないかということで「B」とした。

(委員) 私は「C」評価としたのだが、理由としては、今後の方針を出すうえでの課題抽出や分析を地域別にできれば、より具体的な今後の方針が出るのではないか、ということ。大変迷ったが、頑張っしてほしいという意味で「C」評価としたもの。ただし、部会としては「B」か「C」のどちらかになると思うが、「一部見直し」となると、「少し直せばよい」という意味にとられるか。

(委員) 確かに「一部見直し」だと、「ちょっと直せばよい」となるかもしれない。

(委員) ヒアリングの際はかなり説明されていたので、その内容を内部評価シートに反映できていればよかった。地域別にも説明されていたので、恐らく可能かと思う。

(委員) 私は、数値分析に重きを置いて全体評価したのだが、部会長は地域別の分析を重要視されたのかと思う。

(部会長) 地域ごとに事情が違うのであろうということ。「地域の実情に応じた」と記載してあるので、地域別に方針は違うのではないかということ。ただし、「A」評価をしている委員がいるので、間を取って「B」評価とするがよろしいか。

(委員) 全ての項目が「B」になる。

(委員)「B」の中でも「概ね適切」と「一部見直しが必要」に若干温度差がある。

何か他に良い表現はないのか。

(委員) これは前回から変更したところか。

(事務局) 昨年度から変更したところ。

(委員) それまでは3段階の評価であった。

(委員) そのとおり。それを4段階評価にした。

(委員) 「B」と「C」の間にもう1つ段階が欲しいということか。

(部会長) あまり細分化し過ぎると大変である。どちらかと言えば適切に近い見直し(B)か。暫定的にそのようなかたちにする。

総括意見

(委員) 私の意見では、ヒアリング時に説明されていた事項を評価シートに反映させたほうがよいということ。口頭では仰っていたが、シートには記載されていなかった。もう1人の委員の意見として、「路線バスが廃止された場合の代替案は検討されている」とある。

(委員) その点は評価しているということ。

(委員) さらに「今後の北上市の公共交通体系を早急に検討する」とあるが、「検討すべき」ということか。

(委員) そのように訂正をお願いします。

② 事務事業評価

一般交通運輸対策事業

(部会長) これは3人とも「B」としているのので、部会としても「B」とし、コメントもそのまま採用する。

コミュニティバス運行補助金

(部会長) ここでは3人とも「A」としている。コメントは「A」なので特に記載されていないが、事務事業の改善に関する意見として、「利用者数が増加しているのは評価される」「交通空白地域の住民サービスとしては効果が出ているが、維持管理費が増加すると予測されるためその対応を検討する必要がある」と出ている。

(委員) 今後市の補助金支出が増えるのではないかということ。

支線交通運行事業費補助金

(部会長) これは2人が「A」、1人が「B」としている。

(委員) コミュニティバス運行補助金には、出動回数や利用者数の評価指標があるのだが、この事業には無いので「B」評価とした。

(部会長)「A」が2人であったとしても、1人が「B」評価としているので、総合的に判断すると「A」ではなく「B」となる。また、コメントはそのまま残す。事務事業の改善に関する意見として、「今後も1/2補助のシステムは継続可能なのか。平成27年度から利用料金の値上げを予定されているが、利用者の減少の予測はしたのか」という問題提起と、「口内地区の取組は評価される」とある。

(事務局) 事務事業の改善に関する意見にある1/2補助の継続については、今後も継続し、次年度からは補助金の限度額も増やす予定である。平成27年度からの利用料金の値上げについては、利用者数の減少に伴う収入の減による値上げではなく、消費税10%に伴う値上げを検討しているとのこと。故にまだ流動的な状態である。

(委員) 消費税に付随した値上げということか。

(事務局) そのとおり。値上げはあくまで消費税に付随したものである。消費税が上がらなければ現状維持が濃厚である。

(委員) 事務局から説明があったが、改善に関する意見として残すかどうか。

(委員) このまま1/2補助を継続すると市の負担が増えていくのではないかとこの懸念はある。前段の部分は残してほしい。

(部会長) それでは前段の部分の記載は残すこととする。

(2) 地域医療の充実 (評価者: 3名)

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

(部会長)「A」が2人、「B」が1人となっている。従来の方式だと「B」評価ということになる。

(委員) 私は「A」と評価した。

(委員) 地域医療の充実を図るとあるが、「地域」が北上市全体を指すのか、北上市を個々のブロックに分けた「地域」を指すのか、具体的に記述してほしいと思った。市内に分けた「地域」となると、その地域によってターゲットは異なる。

(委員) 地域をどのように定義するか。北上市全体を指すのであれば問題ないと思うが、市内の個々の地区を指すのであれば、どのような定義にするのか。担当課の考えとして、市全体を「地域」とするのであれば、評価としては「A」になる。

(委員) そのとおり。

(部会長) 担当課に確認願う。その回答によって「A」か「B」かが決まる。もし、地域が市内の個々の地域を指すのであれば、今述べたような意見をコメント

として記載し、「B」評価となる。そうでなければコメント無しで「A」評価となる。

(事務局) 担当課に確認したところ、ここで言う「地域」は、北上市内の個別の地域ではなく、北上市全域を捉えたものであるとのこと。

評価指標の設定は適切か

(部会長) 「A」が2人、「B」が1人となっている。

(委員) 私は「B」とした。項目「成果の定義が明確に定義されているか」で述べたことと同じ理由である。地域別に評価されているかどうかである。

(委員) 前の施策「地域の実情に応じた公共交通体系の構築」で私が述べたように、地域別の指標を設定したほうがよいということか。

(委員) そのとおり。

要因考察や課題の把握は適切か

(委員) ここでは「A」が1人、「B」が2人となっている。「B」とした理由は、「現在の課題及び改善を要する事項」②で地域包括ケアの話をしてしたが、これはもちろん課題ではあるのだろうが、どちらかと言えば「今後の展望」や「施策の展開」として記載したほうがよいのではないかと思う。内容的にどうこうということではなく、記載する欄が違うのではないかということ。成果の達成状況の分析が単年度、最終年度の見込みともに「順調」と評価している。順調であれば、「現在の課題」としてさほど致命的なものは無いはず。今後、地域包括ケアとしての課題があるだろうということで、この「現在の課題」欄に記載したのではないかと思う。

(委員) 地域病院の輪番制など地域ごとの病院について詳しく記載してあるので、その地域特性を考慮すると漠然としている印象である。

(委員) 地域特性に応じた課題把握に具体性が乏しいということか。

(委員) そのとおり。

市の今後の方針は適切か

(部会長) 「A」が2人、「B」が1人である。「A」の理由として、「ケアカフェきたかみの成果が期待される」とある。

(委員) 「B」の理由としては、前の項目と同じだが地域別の具体性に乏しいということ。

(部会長) 「地域」の定義がどうなるかによって3人とも「A」になる可能性がある。そうでなければ「B」となる。ただし、「A」の理由である「ケアカフェきたかみの成果が期待される」の記述をそのまま残してもおかしくはない。

総括意見

(部会長) ここでは、「介護と医療の連携が円滑に実施できれば高齢者層への病気予防策の効果が高くなる。」「地方の勤務医不足は大きな問題となっている。市としての医師不足確保の取り組みは評価できる。」「様々なデータが分析されているのは評価される。」の3点が挙げられている。これらの意見はそのまま残すこととする。

②事務事業評価

岩手中部地域病院群輪番制事業負担金

(部会長) 3人とも「A」としている。ここは部会として「A」でよろしいか。

(各委員) 異議なし。

(部会長) 事務事業の改善に関する意見として、「診療希望者への100%対応ができているので、この事業は継続する必要がある。」とある。この記述はそのまま残すこととする。

北上済生会病院救急医療等事業補助金

(部会長) 「A」が1人、「B」が2人となっている。私の理解が不足しているのかもしれないが、事後評価シートの「目標達成状況の分析」で、「外来患者、入院患者ともにいくぶん増加傾向」とあるのに対し、「問題点・課題等」では「患者数が減少」とある。これは恐らく目標数値と関連した記述にすれば整合性はあるのだが、このまま公表し住民の方が読んだ際に「おかしいのではないか」という表現に読み取れなくもないので、少し誤解を生まないような記述にしたほうがよい。もう1つの意見としては、「経営的には患者数増が良いのであろうが、究極の目的から考えるとそれでよいのか、難しい問題である」と記載がある。総合的に判定すると「B」評価でよろしいか。

北上済生会病院医師確保支援事業

(部会長) ここでは「A」が2人、「B」が1人である。「B」の理由として「医師数という評価指標が必要ではないか」とある。現在設定している指標は、「定例会開催数」「医師誘致活動回数」「定例会1回あたりコスト」「医師誘致活動コスト」であり、これら活動レベルの指標ではなく、成果に関する指標が必要ではないかということか。

(委員) そのとおり。

(委員) 医師確保のための取り組みは行っており、その活動の指標はあるが、取り組みの結果の指標はどうなのかということ。北上市の事務事業評価のシートでは、

- 評価指標の設定の際に活動指標ではなく成果指標の設定もできるのか。
- (事務局) 可能である。できるだけ成果指標の設定をお願いしているところであるが、難しい場合は活動指標やコストなどを加えて「評価指標」というかたちに行っている。
- (部会長) 医師確保のために様々取り組むがそれが直接的な医師数に結び付かないという点が難しいが、成果指標の設定という意味では私の評価を「A」から「B」に変更する。そうすると総合的に判定すると「B」になるがよろしいか。
- (委員) よい。ただし、平成25年度からのデータしか無いので、それ以前の数値がわからない。よって、今後、成果指標として設定してほしい。
- (委員) この事業の開始年度はいつか。
- (事務局) 平成25年度である。
- (委員) 今年度も取り組んでいるのか。
- (事務局) 継続して実施している。
- (部会長) 平成25年度、平成26年度それぞれの医師数がわかればよい。ここでは総合的に「B」とする。

(3) 環境監視体制の強化と公害の防止 (評価者：4名)

① 施策評価

施策の成果が明確に定義されているか

- (部会長) この項目では「A」が2人、「B」が2人となっている。「B」の理由として、「現状についての記述がほしい」とある。
- (委員) 「B」の理由としては、環境問題に関してはデータが沢山ある。よって、数値で定義されるものは定義してほしいということ。
- (委員) 今の内容については、コメントとして加えてほしい。
- (委員) 私の評価した理由については、第1回専門部会で説明があったかもしれないが、現在の市域内の大気や水環境等がどのような状態にあり、それをどのように変えていかなければならないのか、記載している内容ではわからなかった、今の状態がベストで、その状態を維持していくという認識でよいのかわからなかったため、市の現状に関する記載があり、その状態をどのように変えていくのかという点が見えればよいと思う。
- (部会長) 総合判定では「B」評価とする。

評価指標の設定は適切か

- (部会長) この項目では「B」が3人、「C」が1人となっている。「B」評価の理由としては、「市の具体的な行動（監視員による監視等）の結果から得られ

る情報も指標として加えることができるか」とある。

(委員) 現在は県のデータを用いた指標を設定しているが、市が行っている事業の中で何か指標として比較できる数値があるのではないかと、ということ。そのような指標があれば、より市の活動の成果が見えるということで注文的に記載した。

(委員) コメントとしては記載していないが、前回までのディスカッションの中でも出た事項で、部会長の記載のとおり合成指標を用いないほうがよいと思う。

(委員) 県のデータではなく、北上市独自の数値を分析し目標設定してほしい。環境審査の観点からみると、このように数値の設定ができていないと「C」評価になる。

(部会長) 担当課の説明では、合成指標を設定したのは、市民に対するわかりやすさとのことだった。あまり細かな指標を使って複雑に指標設定するのはいかなものか、という背景があり複数の数値を1つにまとめたとのこと。ただし、逆に見る人が見ればわかりづらくなっていることも事実であるもののそういう意味では「B」(一部見直し)でもよいかと思うので、私の評価は「C」から「B」に変更し、コメントはそのまま残すこととする。よって、専門部会評価は「B」とする。

要因考察や課題の把握は適切か

(委員) 「A」が2人、「B」が2人となっている。成果達成状況の要因考察の外部環境①、②で、黄砂などの影響や河川の水質について自然由来により大腸菌の基準値が超過すると説明していた。もちろんそのような要因があり、成果の達成状況も「順調」というよりは「概ね順調」と評価したのだと思う。ところが、それらの要因に対して「現在の課題」欄で触れていないため「B」評価とした。

(委員) 黄砂やPM2.5については私が質問したと思うが、越境汚染について北上市に影響が出ているということを書いてほしい。北上市で発生したものだけではなく、越境汚染についても記載してほしい。

(部会長) そのコメントも加えてもらい、最終版の評価シートで確認したい。2人が「A」と評価しているが、「B」も2人であるため、総合的に判定して「B」とする。

市の今後の方針は適切か

(部会長) ここでは2人が「A」、2人が「B」と評価している。「B」の理由として「地域との連携について記述がほしい」と記述がある。

(委員) 施策の方針として「企業、地域、行政が連携し」とあるが、企業との環境

保全協定に関する話は出たが、地域との具体的な連携に関しての記述がほしかった。

(委員) 地域との連携についてはあまり話に挙がらなかったが、事務事業評価シートで環境基本計画推進事業があり、そこにある市民参加のエコネットワーク推進会議などが「地域」を指すと思うが、地域との連携について時間を割いて具体的に議論はしなかった。

(委員) 地域との連携について具体的に何か取り組んでいるのであれば記載したほうがよい。

(委員) 総括意見でも触れたが、北上市は企業が沢山立地している地域であり、企業との連携をしっかりと行うことで、例えば市として企業に対して研修を行う等具体的な取組みを望みたかったが、今後の展望欄にあまり記載されていなかった。

(部会長) 今の意見を入れ、総合的に「B」評価とさせていただく。

総括意見

(委員) ここでの意見は、「環境監視体制の強化」の内容としては、やや貧弱な印象を受ける。施策目的を達成するための具体的な市及び市民の行動が盛り込まれることを期待したい。」と「環境汚染防止に努めているようである。しかし、今後多くの企業の立ち入り調査について対策を講じることを検討する。例えば、専任環境監視員を増やすことを検討する。CSRの講習会を開催するなど。」とある。

(委員) 私のコメントについては、施策名が「環境監視体制の強化」とすごく大きなものであるが、その施策を構成する事務事業を見たときに、「環境監視体制の強化」を声高に叫ぶくらいの活動になっているかという疑問があるということ。事務事業評価シートも環境基本計画推進事業などが入ってきている。そのような事業ではなく、施策の目標を達成させるために市が市民に対しどのように行動を促そうと事業を実施しているのか、そのような点が出てきたほうがよいと思う。今後期待したいということで、そのようなコメントを記載した。

②事務事業評価

北上市環境基本計画推進事業

(部会長) 「A」が1人、「B」が3人となっている。「B」評価の3人のうち、2人からコメントがあるが、それぞれ「目標の達成状況が「概ね順調」とあるが、事業実施後の現状と比較においてどの程度貢献できているのか、知りたい。」と「指標3の名称変更が必要と思われる。」と記載されている。

(委員) 目標達成状況が「概ね順調」とあるが、その年度の活動をどのくらい提供

したのかわからない内容の記述が多い。その点の工夫があればよい。

(委員) シートの記載だけではなかなか読み取れない。ただし、ヒアリングの際もそこまで踏み込んだ議論ができなかった。

(委員) 議論の中で出たと思うが、指標3「計画目標の達成度」が、数値目標の達成度ではなく計画の進捗状況の達成度であるという説明だったので、指標の名称を変更したほうがよいと思う。

(部会長) 確かにそのような議論があった。私も「A」から「B」に変更する。よって、総合的にも「B」評価となる。事務事業の改善に関する意見としては、「条例に基づく計画策定の事業を評価するのは難しい(評価になじむか)」と「企業の環境部署と連携をすることで事務事業が削減できると予測できる。」の2つがある。

(委員) 事業目的に「市、事業所、市民が連携して環境に配慮したまちづくりをめざしていく」とあるので、連携が進めば事務事業が減ると思う。

(委員) 恐らく直接の担当部署が産業経済担当等その方面と誤解しながら連携しているのかな、という点はあるかもしれない。

(委員) 北上市は工場が多いので、推測になるが直接の環境部署を設置している事業所はあまり多くないのかもしれない。

(委員) 「条例に基づく計画策定の事業を評価するのは難しい(評価になじむか)」という意見については、まさにそのとおりだと思う。このような計画推進事業や計画策定事業を評価するのは非常に難しい。

(委員) 施策の構成事務事業を見たときに、例えば「生活環境苦情対応」、これは事務的な部分が多いかもしれないが、このような事業を評価していったほうがよいと感じた。この場で議論する事務事業の選択について、次回以降考えたほうがよいと思う。

環境保全協定

(部会長) 「A」が2人、「B」が2人となっている。

(委員) 環境保全協定は、「北上市環境を守り育てる基本条例第13条」を遵守するためにあるのか。もっと具体的に記載してほしかった。

(事務局) 一部企業に対しては法令基準より厳しい基準で協定を結んでいる。条例第13条は、環境保全協定の締結に関することであり、第1項で「事業者と環境の保全に関する協定について協議し、その締結に努めなければならない。」とある。第2項で「事業者は、市長が環境保全協定の締結について協議を求めたときは、これに応じ、その締結に努めなければならない。」とある。第3項で「市長及び事業者は、地域コミュニティ団体から環境保全協定について要望があった場合は、市、地域コミュニティ団体及び事業者の3者で協議

を行い、その要望に配慮しなければならない。」となっている。ただし、この条例は理念条例なので、細かな規定はしていない。協定を締結している事業所は59社あり、1社を除いて法令より厳しい設定で協定を結んでいる。

(委員) そもそも市として環境保全協定を結ばなければならない事業所がどの程度あり、その事業所数に対して59社というのはどのくらいの割合なのか。59社が対象事業所の100%ということか。

(事務局) 誘致企業数だけでも200社は超えているが、全てでは無く特定の施設が対象になるかと思う。

(委員) 59社の具体的な業種はわかるのか。

(事務局) 製造業関係だと思う。

(委員) 評価指標2「協定締結を申し入れたすべての事業所との環境保全協定の締結」の推移をみると、平成23年度以降は全て「申し入れ対象事業所なし」とある。これはどのように評価したらよいのか。申し入れ対象事業所が無いが、人件費が発生しており、目標達成状況も「概ね順調」となると、どうもしっくりこないのが正直なところ。ここでの人件費は何に関するものなのか。環境保全協定を結んだ企業が、その協定を守っているかどうか確認しているということか。そのような活動が実際にあるのか。

(事務局) そういうことだと思う。事業の概要に「保全協定に基づく立入測定を実施することで公害発生の未然防止を図る」とあるので、そのような活動はしている。

(委員) 指標3にある「環境保全協定基準遵守率」の数値について、立入調査した結果、100%遵守されていないということか。

(事務局) そのとおり。平成25年度の遵守率は97.1%である。

(委員) 専任環境保全監視員がその立入調査を行うのではないですか。

(委員) 監視員も職員と同行する。

(事務局) そのとおり。立入調査にはある程度権限が必要となるため職員が行うが、監視員も同行する。

(委員) 職員が持つ検査証が必要になる。

(委員) 北上市の総事業所数はいくつか。締結事業所数59事業所は全体の何パーセントにあたるのか。

(部会長) 指標の設定自体がややわかりにくいというコメントを入れて「B」評価としてよろしいか。

(委員) 基本的に協定を締結している事業所には毎年立入調査しているのか。

(事務局) ほぼ毎年である。

(委員) そうすると、分母である「協定に基づく立入り事業所数」は変わる可能性がある。

(事務局) そのとおり。

(委員) その点をわかりやすくした方がよい。

(部会長) 指標の設定に関して意見があったが、「環境保全協定締結事業所数」については、実数だけだと全体に対しての割合がわからない。「環境保全協定基準遵守率」も分母が大体同じであれば良いが、現在の記載内容ではわからない。私は「A」評価としたが、一部改善をする必要があるため「B」評価に変更する。今のコメントを入れてもらい、「B」としてよろしいか。また、事務事業の改善に関する意見については、「家畜の糞尿による環境への影響を考えると、畜産業者（農家）が含まれていないことに不安を感じる。」とある。

(委員) 畜産業者が入っていないかということ。

(委員) 事務事業評価シートの成果指標の数について、何個まで入力できるのか。

(事務局) いくつでも可能である。

(委員) それでは実数と割合を併記することを考えてほしい。

専任環境保全監視員設置事業

(部会長) 「A」が2人、「B」が2人となっている。「B」の方の理由はどうか。

(委員) 誘致企業数や地場企業数を考えると、現状の専任監視員では少なすぎるのではないかと思う。さらに増やしてほしい。

(委員) ただし、担当課の説明にあったが、監視員に何か専門の資格があるわけではない。

(委員) 故に専門的な資格を有する人材を配置してほしい、となるか。

(委員) そのとおり。

(委員) 私の印象だと、専任の監視員を設置して巡回することがよいのか、一般市民のネットワークを活かすために何か働きかける事業を実施した方がよいのか、これまでも検討されたかもしれないが、専任の監視員を設置するという事業のわりには監視員に専門の資格が無いという状況の中で、効果が上げられるのかという不安はある。故になかなか「A」を付けられなかった。また、平成25年度に人件費が増えているが、その理由として、職員数に変動は無く、内部的な業務の割振りによるものという説明であった。特別に何か業務が増えたということでは無いようなので、その点を整理した方がよいかと思う。1番は監視員が巡回する前と後とで、どのようになったのか知りたい。

(部会長) 総合的に判断すると、「A」が2人、「B」も「2人」なので専門部会としては「B」評価となる。意見として出た内容については、コメントとして追加してもらえればと思う。また、事務事業の改善に関する意見は1件ある。

(委員) 施策評価シートの課題及び改善を要する事項②に「十分な立入調査ができ

ていない」と問題意識が書かれているが、そのような現状認識をしているにもかかわらず、監視体制はどのようなのかということが疑問。

(委員) これだけ大きな工業団地を抱えているので、監視するという体制を整えれば企業側の緊張感も増すと思う。

(委員) 環境保全協定の締結に関してもそうだが、畜産業者の臭気苦情の問題が継続していると認識しているにも関わらず、それに対する打つ手として畜産業者は環境保全協定の対象に含まれていないというのは、ちぐはぐな感じがする。

(部会長) これらの意見を補足してもらい、最終のとりまとめシートでチェックする。

(4) 災害における情報伝達手段について

① 追加資料担当課説明【資料どおりの説明部分略】

北上市で一番発生の可能性の高い災害は「水害」である。水害を対象として考えると、ラジオ系がより効果の高い手段という考えに至った。ただし、発災時や発災後を考えると同報系無線（屋外スピーカー）が有効である。

【質疑応答】

(委員) ラジオ系がより効果が高いという結論は資料からどのように読み取ればよいか。

(担当課長補佐) A 4 表の 1 番上の「水害」に限定すると、1～10までの手段を点数化して集計している。その集計した点数が一番高いものを有効と判断した。例えば「発生時」であれば、区分 9 の「コミュニティ FM」は 19 点であり、他の手段（同報系 14 点、防災ラジオ 15 点）よりも効果的であると考えた。また、「発生後」であれば、コミュニティ FM が 20 点、同報系無線が 19 点と高い点数になっている。「発生前」だと同報系無線（14 点）よりコミュニティ FM（17 点）の方が有効である。防災ラジオ（発生前 14 点、発生時 15 点、発生後 17 点）だとパソコンに入力した情報を音声化してラジオで流すことになるので、どちらかと言うと抑揚の無い情報提供になり緊迫感が生まれにくい。また、文字数も 200 文字までと情報量に制限があるので、他より点数が低くなる。

(委員) 「ラジオ系」は防災ラジオだけでなく、災害 FM やコミュニティ FM も含むのか。

(担当課長補佐) そのとおり。

(委員) そうすると、この表で言えば区分 8～10 に当たるのか。

(担当課長補佐) そのとおり。

(委員) 区分 8～10 の合計が相対的に高いのではないかと、ということか。

(担当課長補佐) そのとおり。ただし、同報系無線（手段No.7）については、「発生時」、「発生後」は比較的外にすることが多いので、情報を流しやすいと考える。よって。区分「地震」の「発生時」で比較すると、同報系無線が21点でありラジオ系（コミュニティFM19点、防災ラジオ15点）より点数が高い。

(委員) この検証結果は課内の自己評価ということか。

(担当課長補佐) そのとおり。

(委員) 採点にはどのような基準があるのか。

(担当課長補佐) はっきりした基準は特に定めていない。単純に手段を比較してどちらに優位性があるのか判断した。前回の専門部会で複合した手段の比較が必要という話があったが、そこまでは出来なかったのがこのようなかたちになったもの。

(委員) 「比較」とはどのような比較をして点数化したのか。評価した人の主観か。

(担当課長補佐) そのとおり。

(委員) 別の人が評価したら、違う結果になるということか。

(担当課長補佐) その可能性はある。

(委員) 防災訓練時に実施したアンケート結果を踏まえて評価したのか。

(担当課長補佐) アンケート結果は反映させていない。

(委員) アンケート集計結果は出たのか。

(担当課長補佐) ほぼ出来上がっているが、まだ最終的に確定していない。

②外部評価シートの様式について

(事務局) 委員の皆様には各項目のA～D評価もしていただいたのだが、事務局で検討した結果、施策とは違い現在進行中の課題でもあるため、A～D評価することが適切かどうか判断し、評価項目ごとの意見を集約した方がよいのではないかということで一旦、A～D評価を載せないかたちでまとめさせていただいたもの。その点をご協議いただければと思う。

(委員) 変更点はそれだけか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 今後、「市の中で検討する際に参考にします」という程度の位置づけになるということか。

(事務局) この重要課題に対してA～D評価が馴染むのかという疑問があったもの。それでは、先生方に記述していただいたとおり、A～D評価を載せた評価シートでとりまとめることとする。

③各項目の評価

課題解決の検討

【手法の選択肢】

(部会長) 「A」が1人、「B」が1人、「C」が2人となっている。

(委員) 手法の選択肢がカバーされているため「A」とした。

(委員) 選択肢は網羅されているが、選択の根拠が明瞭ではないということで「C」とした。

(委員) いくつか手段がある中で1つだけ選んでいくことがよいのかどうか。そのような観点から複合的な検証も必要であると思い「C」とした。

(委員) 長所・短所は検討されているが、例えば地域特性を考慮するなど、どのように選択するのか明確にしていない。

(部会長) 1人が「A」としているが、「B」「C」評価の人がいるので、総合的には「A」にはならない。よって、「B」か「C」になる。

(委員) 私は「C」寄りの「B」である。

(部会長) そうすると総合的には「C」ということでよろしいか。

【市民の視点】

(部会長) 「A」が1人、「C」が3人となっている。

(委員) 特段コメントが無かったので「A」とした。

(委員) 市民のアンケート結果と検討内容が異なっていた。屋外スピーカーはコストがかかるという説明はあったが、かと言って全面的にコミュニティFMかという点、そこまで明確な根拠が示されていなかったという点が気になり「C」とした。

(委員) コミュニティFMは有効だという総務省の見解も前回の専門部会で話に出たが、「災害時の情報がない」という市民の意見と「コミュニティFMが有効」という直接的なつながりの部分で論理的飛躍が感じられる。コミュニティFMが有効だということを持って、「災害時の情報がない＝コミュニティFMが有効」という理屈付けになっているのかなと感じられた。

(委員) 市民が本当に何を希望しているのかということが全く見えてこないままに、結論だけ先に持ってくるのは尚早である。意思決定過程を吟味した方がよいと思う。

(部会長) それでは総合的な判定は「C」とさせていただきたいが、よろしいか。

【経費】

(部会長) ここでは「C」が2人、「D」が1人、保留が「1人」となっている。

(委員) 私は判定していないが、コメントだけ記述した。

(委員) 「D」と評価したが、「C」の誤りなので訂正願う。

(部会長) それでは専門部会としては「C」とさせていただく。各委員の意見につ

いて付け加えることがあるか。

(委員) 前回の専門部会でも話したが、「公設民営」を前提とした検討だということで、行政が直接FMを持ってないといことはわかったが、他の方法を検討した方がよいのかなということで「C」とした。

(委員) 私は判断する上で明確な数値がまだ算出されていないということで「C」とした。

(委員) 具体的な数値が無いので、判断できなかった。また、費用対効果で決めるものではないと考えた。他の手段より費用がかからないのでよい、ということではなく、具体的に経費を算出して住民との意思疎通で必要十分条件で解決できるものを設置してほしいということ。

(委員) コミュニティFMの採算性に課題があると話が出ていたので、「維持管理費用は見込まず」となっていたが、それでよいのか疑問があった。

【課題解決の検討に関する総括意見】

(委員) 前回の専門部会でも話したが、北上ケーブルテレビを事業者とした公設民営の検討になっており、特定の事業者を前提とした検討というものがどうしても拭いきれない。仮にFMが有効だとしても、地理的条件や地域性、市民の意識を含めて検討が必要かと思う。

(委員) 私は「コミュニティFMありきの印象が拭えない」と記載した。

(委員) 市民からの要望について明確でないため、この提案の機器でよいのか判断つきかねる。

今後の考え方

【内容】

(部会長) ここでは「B」が1人、「C」が2人、「D」が1人と評価が分かれている。それぞれの意見はどうか。

(委員) コミュニティFM、防災ラジオしか書かれていなかったもので、それ以外の検証も必要ではないかと思った。

(委員) 私は、消防庁のアドバイザーだけでなく、コミュニティFM導入自治体からも幅広く意見を聴くべき、と記載した。これは消防庁がFMを推奨しているので、アドバイザーの助言があったとしても実際そのとおりであろうと。故にコミュニティFMを実際に導入している自治体からも意見を聴くべきではないかということ。

(委員) 北上市以外で導入している自治体の意見を聴いたほうがよい。良い点・悪い点を広く聴いた方がよいと思う。

(委員) 「D」と評価したが「C」の誤りである。訂正願う。理由としては、防災ラジオを「念頭」に置いているところがどうしても拭えない。既存の手段、

新規の手段を複合的に検討する必要がある。

(部会長) それでは総合的に判断して「C」判定とさせていただきます。

【理由】

(部会長) 「A」が2人、「C」が2人となっている。「C」と評価した方の理由をお願いします。

(委員) 内部評価シートのこの部分の記載内容について「うんうん」と読んだのだが、どうしても防災ラジオを念頭に置いているという疑念があったので、「A」を付けられなかった。先ほどの項目と同じように、防災ラジオを念頭に置くということが引っ掛かった。

(委員) 私も同じ意見である。ボトムアップしてしっかりと選定してほしい。

(部会長) 「A」が2人、「C」が2人ということだが、その間の「B」ということにはならないので、「C」判定とさせていただきます。私も「A」と評価したのだが、前段の「内容」のところ「C」と評価したので、この項目は「A」でよいのかと迷った。

【市民の視点】

(部会長) ここでは「A」が1人、「C」が3人となっている。「A」の理由として、「市民の視点は検討されているが、アンケート調査結果は市民の思い込みもあると考えられるので、実際に市民の言う通りであるかどうか検証する必要があるように感じる。」とある。「C」と評価した方の理由はどうか。

(委員) 議会で一度否決されたということで、議会は市民の代表であり、その議会のコンセンサスを得られなかった事実を重く受け止めるべきであろうと。

(委員) 私も「C」と評価した。総合防災訓練時のアンケートの回答者が限られているので、その結果を基に言い切るのはどうかと。そういう意味では「A」評価の理由と若干似ているのだが、「C」と評価した。

(委員) 限られた方々のアンケートだけで判断するのではなく、もっと広く調査を実施していただきたい。

(部会長) 総合判定としては「C」とさせていただきます。

【経費】

(部会長) ここでは「C」が3人、「保留」が1人ということになっている。「保留」の意見としては、先ほど「課題解決の検討」にも記述があったが、同じ記述を持ってくるかたちでよろしいか。

(委員) はい。後で少し修正する。

(部会長) 最終案のとりまとめシートで皆さんにチェックの要請があると思うので、

その際に直すこととする。

(委員)「検討」という段階で設置費用まで盛り込んでいるのは「結論ありき」という印象を受ける。もし検討という段階であれば検討費用だけを計上すべきという見方をした。

(委員)私は全ての経費が算出されていないということで、「C」とさせていただいた。

(委員)先ほどと同じでコミュニティFMの維持管理費用も含めるべきではないかと思う。あと、同報系無線の費用が記載されていなかった。

(部会長)それでは総合的には「C」ということでよろしいか。

【実施の効果】

(部会長)「A」が1人、「B」が1人、「C」が2人となっている。

(委員)実施しない場合、内部評価シートの記載されている判断は正しいと思ったので「A」とした。

(部会長)担当課の評価ではなく、実証的な実験を一度行ってほしいと思った。そうすれば具体的な課題も見えてくるのではないかと思う。総合的な判断では、これまでのロジックでいくと「A」にはならない。「B」か「C」かとなる。意見を変更される方はいるか。

(委員)コメントはそのまま残して、判定を「A」から「B」にする。どんな情報機器でも導入すれば、市民の「災害時の情報がない」という状態よりは上がると思った。

(委員)コミュニティFMということではなく、情報伝達手段を検討するということに限って言えば「C」ではなく「B」でもよいかと思う。ただし、どうしても内容的に防災ラジオになっているので、そこまでいくとどうなのかな、と感じる。本当にそれでよいのか、というかたちになる。

(委員)総合的な防災対策を実施したときには実施の効果は出るのか、と判断したので、どのような機器でも導入すれば効果は上がるだろうと判断した。

(委員)その効果がどの程度出るかはわからない。

(委員)それはわからない。

(委員)効果があるか無いかと問われれば、効果はあると思う。また、投入コストに見合った効果があるのかもわからない。

(委員)それもわからない。

(部会長)ここに記載されている表現については、確かに間違ったことは書いていない。私は「C」から「B」に変更する。そうすると総合的にも「B」となるが。

(委員)ただし、コミュニティFMという話になってくると、どうなのかなという

感じがする。

(委員) そうなると総合的には「C」になる。コミュニティFMに限定すると「C」になる。

(委員) A～Dの評価を付ける際に、「B」の「概ね適切」という表現が気になる。「概ね適切」というところまでは辿り着かない。

(委員) そうであれば「C」になる。「概ね」といえば80%以上となる。

(委員) 印象的にはそのとおり。

(委員) ただし、これに関しては、80%以上がよいということではない。

(委員) そのとおり。

(委員) そうなれば「C」となる。

(部会長) それではこれまでの意見を総合的に判断して「C」とさせていただく。なお、コメントはそのまま残すこととする。

【不実施の影響】

(委員) 私はどう判断したらよいかわからなかったので判定しなかった。「B」、「C」の理由は「実施の効果」と同じ内容である。「保留」とした方の意見はどうか。

(委員) 実施しなければ現状の情報伝達手段のみであるということ。

(委員) 私も部会長と同じ意見であり、どのように評価したらよいかわからなかった。しかし、書かなければならないと思い記述したもの。全員「保留」ということでは駄目なのか。回答しにくい。

(部会長) A～D評価におさまらない。総合的な判定を付けなくて、コメントのみとさせていただく。

【今後の考え方に関する総括意見】

・質疑応答なし。

総括意見

(委員) 根底にある考え方は同じだが、災害時に伝達手段を使った際、市民が避難する行動が伴わなければ結果的に防災の意味がないということを考えると、アンケート結果にある市民の意見が本当に正しいのかという判断も必要であろうし、市民が行動できるという視点からのアプローチも必要だと思う。

総合評価

(委員) 「修正実施」というのは、「一部見直し」であれ「大幅見直し」であれ、実施することか。「実施」と問われると、そこまでの判断材料が揃っていない

いので、今回は「保留」ということにした。

(委員) 先ほどの評価項目「不実施の影響」のようにコメントだけ残すことはできないか。

(委員) 「見送り」というのは実施を見送るということか。

(事務局) この課題ごと見送る。

(部会長) そうということなのか。提案内容を見送るということだと思った。課題を見送るということであれば、「大幅見直し」か。

(委員) 検討を継続してより深めた方がよいかと思う。

(委員) 「修正実施」ではなく「要検討」としたらどうか。「見送り」は外したほうがよいと思う。災害に関することは考えなければならない課題である。

(委員) 前回の場合はどうか。

(事務局) 総括意見でまとめていた。前々回の際には先生方には「実施」「修正実施/一部見直し」「修正実施/大幅見直し」「見送り」と個別に評価いただいたが、最終的なとりまとめでは総括意見をまとめたシートにした。

(委員) この評価項目にこだわらず、委員会としてのコメントでもよいと思うのだがどうか。

(委員) 昨年度の課題名が「住宅リフォーム助成制度の事後評価」と具体的に記載されているが、今回は「災害時における伝達手段について」ということで、少し漠然としている。「コミュニティFM」とは言葉として記載していない。また、昨年度の総括評価は4段階で判定している。

(事務局) 4段階評価の下段に総括意見を付している。昨年度は「住宅リフォーム支援事業」という事務事業の事後評価であった。

(委員) 今回は課題名が幅広い。「災害時におけるコミュニティFMの実施」など具体的に書いてあれば、「実施」など書けるが、現状の名称であれば、重要課題そのものには誰も異論はない。

(事務局) 「実施」「修正実施」「見送り」というスタイルではなく、総括意見として皆さんの意見を集約するかたちとなるか。

(委員) 課題名称については今後もう少し考えたほうがよい。

(委員) 内部評価シートの「今後の考え方」で、「防災ラジオを念頭に」と書いてあるので、この場で「OK」としてしまおうとそのまま進んでしまうのかな、という懸念がある。ましてや一度議会のコンセンサスを得られなかった議題をこの委員会にかけられて、我々が「これが良いのではないか」と言って進められるものでもない。この点は正直、非常に難しい。

(委員) 情報伝達手段は重要だと思う。それを重要課題に選ぶのはよいが、中身の手段、方法については要検討していただきたいと思う。

(部会長) 今回は昨年度の重要課題の判定方法と異なり、重要課題の名称が漠然と

しているが故に総合評価は「実施」「修正実施」「見送り」ではなく、総括コメントとして皆様から伺ったものを入れる方式にさせていただく。しかし、その意見の中で例えば「大幅見直し」「修正して実施すべき」と述べていただいても結構かと思う。まとめ方としてはそのようなかたちでよろしいか。

(各委員) はい。

(部会長) それではもう一度コメントをお願いする。

(委員) 重要課題としてこの災害時の情報伝達手段を選ぶのはよいと思う。ただし、その内容について、機器の選定については再度検討を要すると思う。

(委員) 内容についてはさらに検討が必要である。

(委員) 私も同じ意見である。

(委員) コミュニティFMを災害FMとして整備する方向性が打ち出されているわけだが、それに関して更なる慎重な検討が必要である。

(委員) 恐らくコミュニティFMになるのではないかなという気はするのだが、それを積極的に言うための資料も無かった。ゆえに他の成功事例があるとよいと述べた。結論からするとFMになるような気がするのだが、それを主張するのもはばかれる印象がした。

(委員) 議会の問題や想定する事業者の経営の問題もあり、コミュニティFM自体があまり成功していないという話もあり、あまりプラスの要素が無い中での説明だったので、今のまま進めた場合の先行きが目に見えるような感じがする。

(部会長) それでは一通りこれで協議は終了とする。

4 その他

【暫定評価とした項目について（地域医療の充実）】

(事務局) 「地域医療の充実」の評価項目「施策の成果が明確に定義されているか」と「評価指標の設定は適切か」のA～D評価の結論を保留としていた。「地域」の捉え方について、先ほど「地域」は北上市全域を指すと説明したが、北上市全域を指す場合と市内個々の地区を指す場合もある。

(委員) そうだと思う。北上市全域を「地域」とするところや、市内の各地区を「地域」としているところがある。

(事務局) 例えば「地域医療」は北上市全域を指すが、地域包括ケアの「地域」は市内の地区を指す。ただし、この施策で言う「地域医療」と言えば北上市全域を指す。

(部会長) 事務局の説明を受けて、評価を変更する委員はいるか。

(委員) 評価を「B」から「A」に替えて、コメントを付してよろしいか。

(部会長) よい。

(委員) 地域性を判別させて、その場その場で「地域」の定義を明確にしてほしい。

(部会長) 「評価指標の設定は適切か」についても関連して「B」から「A」に替わるのか。

(委員) はい。

(部会長) 他にご意見はあるか。

(委員) 項目「市の今後の方針は適切か」の評価はどうなのか。

(委員) この項目は「B」のままとする。

(部会長) それではこの項目「市の今後の方針は適切か」について、専門部会としての総合評価は「B」とする。

【確認事項】

(事務局) 本日議論いただいた部分も含めて、再度、評価シートをまとめて会議録と一緒にメールする。そこで修正等々あれば次回の委員会までにやりとりするというところでよろしいか。

(各委員) それでよい。

(事務局) それではなるべく早めにメール送信するので、ご確認いただければと思う。